

間にか32年。長くもあり、短くもあり、いまだ成長中です」。

<米山奨学委員会>

井上勇委員長

鈴木文夫会員→「妻のバースデー、お花ありがとうございました」。

本日のプログラム

<会員卓話>

パスト会長 玉井会員

私は平成13年度に会長を務めたのもう20年以上前のことになります。今回は台湾永和RCの友好関係の経緯についてお話させていただきます。昭和53年11月に川崎多摩RCが中心となり、川崎百合丘RCの有志(星野、村田、石井、立川会員)が参加して外国に友好クラブの締結を計画したのがはじめです。台湾の花蓮RC、台湾北RC、嘉義RCを訪問しましたが、創立して間もなく若すぎるとい理由でやめたようです。



昭和54年6月に川崎多摩RCを中心に川崎百合丘RCの星野会員と入会前の山崎会員が参加して台湾永和RCを訪問したのが始まりのようです。台湾永和RCの創立が、1977年(昭和52年)2月10日、当クラブは1978年(昭和53年)で、互いに創立間もないクラブで、クラブ構成も似通っているし、立地条件も共通するという点で、友好クラブにふさわしい条件を備えているという事で交流が始まったようです。2か月後の8月には中和、永和RC一行(家族を含め40名以上)が訪日された際、渋谷東武飯店で歓迎晩餐会を開いて、永和RCとの親交が深まりました。2年後の昭和56年4月3日、永和RC創立5周年記念式典に親善訪問団を結成して、池田団長以下星野、岡村、服部、山崎、関口、箕輪の7会員が訪台し、丸山大飯店で挙行され、熱烈な歓迎を受け、当クラブから記念に鎧兜を送ったという記録があります。昭和57年10月に所用で台湾を訪れていた武田会員が永和RCにメークアップした折に、来年4月に川崎百合丘RCの5周年記念式典に出席したい旨お話がありました。昭和58年1月、武田国際奉仕委員長のもとクラブフォーラムを開催し永和RCの訪日を公式行事として取り上げ、対応を検討し臨時予算を決めました。同年4月に中和、永和RC一行が来日した際、三井ビルメヌエットホテルで歓迎パーティーを開催し、翌日サッポロビール、富士通コンピューター工場を見学し、川崎百合丘RC、川崎多摩RC合同例会を聖マリアンナ医科大学で開催し、盛大な歓迎パーティーでおもてなしをし、国際理解と友好を深め、再会を

約束しました。5年毎にお互いの周年行事に参加し親交を深め国際理解と友好を深め今日に至っております。

パスト会長 大矢会員

川崎百合丘RCに入会したきっかけはお昼ご飯を食べに来て下さいと誘われたことでした。入会しバナーを描く依頼を受けましたが、バナーとは何かということも知らない中、まずタマノカンアオイ(多摩の寒葵)を2枚ほど描き上げました。しかし、やはり百合丘なので百合を描いてほしいと変わりました。そんなこともありロータリークラブは嫌なところだと思いました。その頃は会場もありませんでしたので横浜銀行百合丘支店3階で椅子を片付けテーブルを直し簡単な会場を作っていました。神奈川の花はヤマユリです。そういうわけでバナーはヤマユリを描き始めました。それが現在皆様のお手元にある川崎百合丘RCのバナーです。先日家の中を整理していたら原画が出てきたのでいずれ事務局にお渡ししようと考えています。



チャーターナイトはその頃できた聖マリアンナ医科大学でやることとなり、私も藤沢や江の島などのRCに行き宣伝しました。聖マリアンナの戸栗先生にもお世話になりました。仕事等の疲れからメニエール病になったことがありしばらく休みました。6か月くらい休みRCも辞めようか迷っていましたが、戸栗先生からもう治ったから大丈夫と言われ辞めずに続けることとなりました。ここが私にとってRCを続けられるかどうかのターニングポイントでした。

11月3日～26日まで市民ギャラリーで展覧会を開きます。その展覧会のポスターである昭和新山を描いた時はその年度の一番の賞をいただきました。しかし絵の世界は実力の世界でみんなライバルです。そのような中でRCをやっている色々な職業の方に助けられたと思います。去年我が家で鼠騒動があったときは北島さんをお願いしました。戸の立て付けが悪いときは親松さんに。花のスケッチの時は鴨志田さんに。病気の時は戸栗先生に。RCの皆さんは友達なのですが私の心の中では親戚みたいな感じがします。「入りて学びて、出でて奉仕せよ」ということでこの地域に住むことになって50年になるので、地域のお役に立てればと33点の絵画と下図などを寄付しました。ロータリーを通じて自分の人生の中で膨らみができたなと感じています。

<点鐘>

中村会長